

| | | | | | | | |
|--------------------|--|--|----|-----|---------------|--------|----|
| 科目名 Course Name | カウンセリング入門 Primer of Counseling | | | | ナンバリング No. | K4-006 | |
| 年次 | 2年 | 期別 | 後期 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 |
| 担当者氏名 | 秋山真奈美 | | | | | | |
| 連絡方法 | 講義棟3階研究室かC-ラーニングで対応。オフィスアワーは火・土・授業・会議時間を除くものとする。 | | | | | | |
| 必修/選択 | 選択(保育士養成課程選択必修) | | | | | | |
| 関連DP | DP3,DP5 | | | | | | |
| 授業の概要と到達目標 | <p>この科目では、保育の対象(児)のみならず、その周辺にいる人(例えば母親など)や、ひいては自分自身を理解するための心構えや技術を伝えることを目的とする。講義だけでなく、なるべく具体的な体験(セッション)を通じて、自分や相手の気持ち、そして人間関係におけるコミュニケーションのあり方について学習する。最終的に、他者の話を親身になって傾聴する態度を身につけられるよう、心がけて欲しい。</p> <p>従って到達目標としては、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①他者の話を親身に傾聴できるようにする。 ②保育者として、保護者との面談を進めるための心構えと具体的な手法とを体得できるようにする。 ③保育者として、子どもの話を聴くための姿勢と具体的な手法を体得できるようにする。 ④自己理解を深め、自分の他者への影響力を自覚できるようにする。 ⑤望ましいコミュニケーションのあり方について理解しており、相手とのやりとりの中で実行できるようにする。 ⑥初対面の人も“ラポール”(話しやすい雰囲気、信頼感、安心感)が作れるようになる。 ⑦問題行動の背景に潜む要因について理解した上で、クライアントの心情に応じた対応をする心構えを持つ。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 前半は相談援助の心構えなどを講義する。後半はそれらの心構えを基に、ロールプレイングやグループワーク等の対人的なセッションを行う。 | | | | | | |
| 学習成果 | L01 | | | | | | |
| | L02 | <ol style="list-style-type: none"> ①“専門家として”人の話を聞く態度、即ち「カウンセリング・マインド」を体得できる。 ②自己覚知を深め、自分の他者への影響力が自覚できる。 ③問題行動の背景に潜む要因について共感的に分析した上で、クライアントの心情に応じた対応をすることができる。 | | | | | |
| | L03 | | | | | | |
| | L04 | | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 小レポートに書かれていた質問には都度対応する。課題としてのフィードバックの機会はそのくらいだが、日頃より積極的な質問を歓迎する。 | | | | | | |
| 教科書/参考図書 | 教科書は特に用いない。必要に応じてプリントを配布する。参考書・資料は初回授業はじめ各回授業で随時紹介する。 | | | | | | |
| 履修上の留意点やルール等 | セッションを通じて学び取ったことは、毎回必ず小レポートにして提出してもらう。セッション中に聞いた個人情報を、本人に断り無く他者に漏らすことは禁じる。また、私語・居眠り・授業に無関係の行動・不参加は「授業参加態度」における減点の対象とする。事前・事後学習時間の目安は各回180分相当とする。 | | | | | | |
| 担当教員の実務経験 | | | | | | | |

| 成績評価の方法と基準 | | | | | |
|------------|---|---------|-----|-----|-----|
| 評価の領域 | 評価基準 | 学習成果の割合 | | | |
| | | L01 | L02 | L03 | L04 |
| 授業参加態度 | セッションへの積極的な態度、講義への質問を歓迎する。授業目標①～⑦に挙げた、コミュニケーションへの理解と技能の向上とが認められること。 | | 30 | | |
| レポート/作品 | 第15回目授業冒頭で総合レポート「この授業から学んだこと」を提出してもらおう。自己理解や他者理解について、多角的な考察がなされること。 | | 40 | | |
| 発表 | | | | | |
| 小テスト | | | | | |
| 試験 | ○×式のカウンセリングマインドチェックテストを実施する。何故その選択をしたのかも説明できるようにしておく。 | | 10 | | |
| その他 | セッションの翌週に毎回(実質5回)提出してもらおう小レポートの提出率を評価の対象とする。 | | 20 | | |
| 合計 | | | 100 | | |

| 回数 | | 授業計画 |
|----|---------|---|
| 1 | 授業内容 | オリエンテーション:臨床現場の実際 カウンセリングとは |
| | 事前・事後学習 | 保育現場における相談場面を想定する。相談し易い人物の条件を書き出す。 |
| 2 | 授業内容 | カウンセリング・マインド:カウンセラーとクライアント カウンセラーに求められること |
| | 事前・事後学習 | 期末考査に備え、カウンセリング・マインドの要点をまとめる。 |
| 3 | 授業内容 | 問題行動の理解のために:適応・不適応とは ストレスとつきあう |
| | 事前・事後学習 | 日常生活におけるストレス場面を想定すると共に、生活習慣や行動パターンを見直す。 |
| 4 | 授業内容 | 問題行動の理解のために:対象理解の重要性について 適応機制① |
| | 事前・事後学習 | 身近な適応機制の事例をまとめる。 |
| 5 | 授業内容 | 問題行動の理解のために:適応機制② |
| | 事前・事後学習 | 身近な適応機制の事例をまとめる。 |
| 6 | 授業内容 | 効果的なコミュニケーション:自己概念 他者との関係 情緒の安定 現実的知覚 |
| | 事前・事後学習 | 他者とのコミュニケーションのあり方を見直し、実践してみる。 |
| 7 | 授業内容 | 効果的なコミュニケーション:技能と課題 傾聴 アサーション 自己開示 |
| | 事前・事後学習 | 他者とのコミュニケーションのあり方を見直し、実践してみる。 |
| 8 | 授業内容 | 面接の進め方:ラポール 場面の設定 |
| | 事前・事後学習 | 自分が苦手な面接事例を考える。この作業は第 14 回の事前学習ともなる。 |
| 9 | 授業内容 | 面接の進め方:構造化と心得 資料の収集 記録の取り方 |
| | 事前・事後学習 | 友人と簡単な問答を行い、その記録を紙媒体に残す。授業内容をアレンジし、自分なりの取り易い記録の方法を探求する。 |
| 10 | 授業内容 | こころを伝える技術[セッション]:非言語的コミュニケーション 社会的技能訓練 エンカウンター |
| | 事前・事後学習 | セッションを振り返り、小レポートを記述する。またセッションで得たスキルを日常生活で実践してみる。 |
| 11 | 授業内容 | こころを伝える技術[セッション]:言語的コミュニケーション(再述 反映 要約 沈黙) |
| | 事前・事後学習 | セッションを振り返り、小レポートを記述する。またセッションで得たスキルを日常生活で実践してみる。 |
| 12 | 授業内容 | こころを伝える技術[セッション]:言語的コミュニケーション(傾聴 対話 自己開示) |
| | 事前・事後学習 | セッションを振り返り、小レポートを記述する。またセッションで得たスキルを日常生活で実践してみる。 |
| 13 | 授業内容 | こころを伝える技術[セッション]:言語的コミュニケーション(アサーション) |
| | 事前・事後学習 | セッションを振り返り、小レポートを記述する。またセッションで得たスキルを日常生活で実践してみる。 |
| 14 | 授業内容 | ロールプレイングによる保護者模擬面接[セッション] |
| | 事前・事後学習 | セッションを振り返り、小レポートを記述する。これまでの全ての授業内容を振り返り、総合レポートを作成する。 |
| 15 | 授業内容 | カウンセリング関係の終結:終結の心構えとまとめ 【総合レポート提出】 |
| | 事前・事後学習 | この授業の内容全てを振り返り、期末考査に備える。 |